2009年9月11日（金）
北海道新聞

第3種郵便物認可

苫小牧のＮＰＯ法人「がるだする」（舘崎やよい代表）が、食を通じて地域住民の触れ合いを図るコミュニティーレストラン（コミレス）「地域の茶の間　がる」が人気だ。10日は新生台総合センターに市内の主婦ら８人が集い、野菜を多用した食事を囲んで交流を深めた。

（佐野智子）

苫小牧のＮＰＯ法人が「コミレス」

「食」通じ住民交流促進

野菜いっぱいのメニューを囲み、調理のコツや食の安全などについて話し合う参加者

野菜料理と会話楽しむ

コミレスは、食を通じて住民同士の交流や高齢者の居場所として全道各地で誕生している。「がる」は昨年、地域の住民も募り交流の輪を広げようと、広い調理スペースを備えた同センターに場を移して、毎月第2木曜日に営業している。

舘崎さんが三光町の自宅で近所の主婦らと共に月1回のペースで会食の場を設けたことが始まり。5月からは他民の参加を呼び掛けている。舘崎さんは「おいしい料理を囲んで、体に良い食事や環境への負荷の少ない調理方法を学びましょう」と話す。参加費500円。問い合わせは舘崎さん☎0144・34・2385へ。

10日は「がる」のメンバー6人が、手作りみそを用いた夏野菜のみそ汁、見た目はトンカツそっくりな車麩フライなど4品を手際よく仕上げた。調味料は控えめで、野菜はなるべく皮をむかずに調理。初参加の主婦は、ニンジンやキャベツのあえ物を味わい、「これほど甘みがあるとは」と目を丸くしていた。

「がる」は、食事がおろそかになりがちな一人暮らしのお年寄りや食の安全に関心のある主婦など、幅広い市